

教 育 委 員 会 だ よ り

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

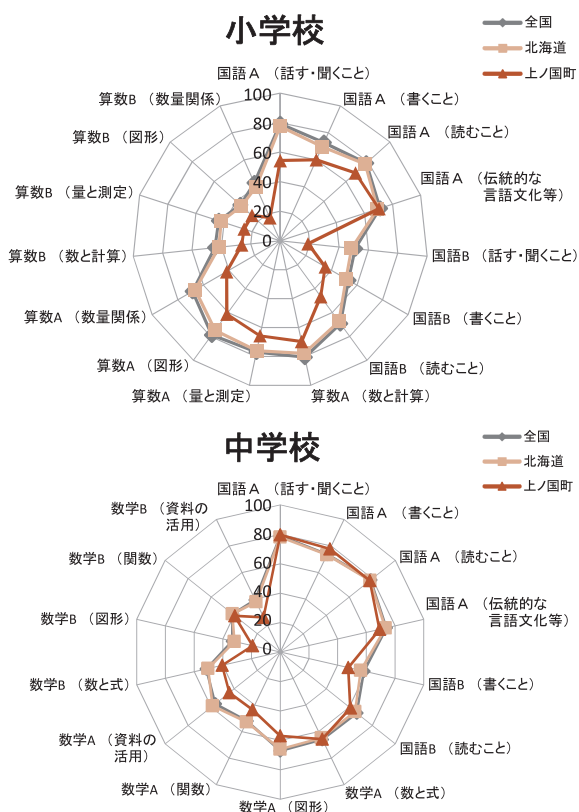
今年4月に町内の小学校6年生(35名)、中学校3年生(45名)を対象に行われた全国学力・学習状況調査の概要をお知らせします。

学力調査は小学校6年生の国語・算数、中学校3年生の国語・数学の各2教科でそれぞれA問題(基礎)・B問題(応用)に分けて行われました。

1. 調査の目的について

本調査は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。なお、本調査の結果は児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面である事に留意が必要です。

2. 調査結果の概要について



「小学校／国語」

- ・A問題では、「伝統的な言語文化等」の領域で北海道を上回っていますが、他は全国、全道を下回っています。
- ・B問題では、全ての領域で全国、全道を下回っています。
- ・話す聞く、文章を読み解き、自分の考えをまとめて書くことに課題が見られます。

「小学校／算数」

- ・A問題では、全ての領域で全国、全道を下回っています。
- ・B問題では、全ての領域で全国、全道を下回っています。
- ・示された説明の解釈や、用いられている考えを別の場面に適用して説明、記述するなどに課題が見られます。

「中学校／国語」

- ・A問題では、「話す・聞く」「書く」の領域で全国、全道を上回っていますが、「読む」「伝統的な言語文化等」では全国、全道を下回っています。
- ・B問題では、全ての領域で全国、全道を下回っています。
- ・言語についての基礎的な内容は、知識・理解ともに深まっていました。

「中学校／数学」

- ・A問題では、「数と式」の領域で、全道を上回っていますが、他の領域では全国、全道を下回っています。
- ・B問題では、全ての領域で全国、全道を下回っています。
- ・与えられた情報や式を用いて数学的な表現や説明をすることに課題が見られます。

3. 成果と課題について

- (1)成果
- ・小学校では、ほとんどの児童は家で学校の宿題に取り組んでいます。また、社会参加意識の高揚が図られ、地域の行事に積極的に参加する児童が多く見られます。
 - ・中学校では、家庭学習の時間が平日では、2時間以上と答えた生徒の割合が7割以上となり、全国、全道に比べて高く、家庭学習の定着が見られます。また、学校で友達に会うのが楽しいと思うが全生徒を占め、9割以上の生徒は、学級会などの時間に友達同士で話し合っ学級のきまりなどを決め、協力してやり遂げるうれしさなど、学校生活の充実が見て取れます。
- (2)課題
- ・小学校では、自己肯定感や自分の考えを人に伝えることに課題が見られます。また、テレビゲームやスマートフォンゲームなどを1日当たり2時間以上行う児童が、全国、全道よりも多く5割を超えていることから、帰宅してからの時間の使い方に課題が見られます。
 - ・中学校では、7割近くの生徒がテレビゲームやスマートフォンゲームなどを1日当たり2時間以上行くと答えており全国、全道に比べて高い割合となっていることから、家庭での時間の使い方に課題が見られます。

4. 学力向上の取組について

各学校においては、本調査の結果に基づき分析を行い課題の解消を図るべく、基礎基本の学力を身につけるよう、毎日の授業改善のために校内研修や各種研修を行い教職員のスキルアップを図り児童生徒の学力向上に取り組めます。

また、ご家庭でのテレビゲームやスマートフォンゲームなどの割合が多いことから、家庭学習のあり方について、子ども達の学習習慣の確立が望まれますので、保護者様のご理解とご協力をお願いいたします。